

AC 5 海の不思議な仲間たち

実施のしかた (PDF)

1. イルカや海中の写真や映像などを見せて、海をイメージさせます。

関係資料のイルカの映像などを見せて、海の中をイメージさせておきます。

2. 指導者が浅い海にすむ生物の特徴を、参加者に分かりやすく説明します。

参加者にワークシート「浅い海」を1枚ずつ配ります。低学年のグループの場合は、指導者は参加者から見やすい位置に立ちます。高学年のグループの場合は目を閉じてストーリーを聞き、これから話す生きもののことを想像するように伝えます。

3. 海のなかを自由に旅ができるイルカをイメージさせ、イルカが浅い海で出会った不思議な生きもののことを、生物の名前をいわずに、形や動きで説明していきます。

例：「みんなはこれからイルカになって海のなかを冒険します。イルカは波打ち際で遊んでいます。浅い海のなかには太陽の光が射してとても明るいのです。波が岩にパシャパシャとあたっています。すると、岩の上にちょっと変わった生きものがいます。形は三角形で山のようなのです。外側は硬くゴツゴツしています。てっぺんには大きな穴が空いています。穴から手のようなものが出てきました。その先はほうきのようにたくさんに分かれていて、全体に毛のようなものが生えています。その手のようなものは波がくるとフワフワと動き、餌を捕まえているようです」

4. 実際の写真を見ずに、参加者それぞれが指導者の語るストーリーを聞いて想像した生物の絵を、自由に描いていきます。

なかなか絵が描けない参加者がいる場合は、サポートスタッフが入って大胆に絵を描いてみると描けるようになることもあります。

5. 参加者同士で絵を見せ合い、シェアします。

絵が完成したら、どのような生きものが描けたか、参加者の間でシェアをします。「こんな生きものだと思う」というような想像の生物を発表してもらってもいいでしょう。

6. 実際の生物の実際の写真を見せて、想像と同じだったところ、違ったところなどを確認します。

浅い海の生物は、岩礁や防波堤などさまざまなところに生息し、多くの人が見たことのある生物です。しかし、海水の引いた場所で見ることが多いフジツボの水中での様子はあまり知られていません。最初に水中での写真を見せて、絵との相違点などを話したあと、多くの人に見覚えのある海水から出たときのフジツボの写真を見せるようにしましょう。

7. 深い海の生物も同じようにストーリーを話して絵を描いてもらいます。

例：「フジツボと分かれたイルカは、広くて深い海へと冒険に出掛けてみることにしました。海のなかには小さな魚や大きな魚がたくさん泳いでいます。岸から離れ、どんどん深くもぐって行きました。すると周りはずだんだん暗くなり、まるで夜のようです。ときどきピカッピカッと小さな光が見えます。それでもどんどんどん深く潜って行くと、突然目の前に変わった形の生きものが現れ

ました。形は丸くペターッとつぶれて平べったくなっています。そこから2本の脚としっぽが出ています。体の周りにフサのようなものがたくさん生えています。体中には水玉の模様がたくさんあります。体の上にはまあるいギョロツとした目がふたつあります。口は大きく、への字にまがっていて、口のなかには小さい歯がびっしり生えています。そして、目と口の間には毛が生えた旗のようなものが立っています。ちょっと触ってみると、びっくり！どンドン丸く膨らんでいきました」

8. 実際の生物の実際の写真を見せて、確認します。

深い海の生物は、深海 100～500m に生息するミドリフサアンコウです。アンコウの仲間のなかでもカラフルな色彩と模様をもっている種で、普段は平べったい形をしています。外部から刺激を受けると自分を大きく見せようと海水を飲み込んでまん丸に膨らみます。頭上に疑似餌を持ち、これで餌となる生物を呼び寄せて捕食します。

9. 深い海にすむ生物と浅い海にすむ生物がいることを説明。

陸上から眺めると単一にさえ見える海も、じつは起伏に富んだ地形をしており、深い谷や火山などが存在していること。そしてそこには、他の種と微妙な棲み分けを行い、潮間帯や深海まで、あらゆる環境に適応した暮らしをしている生物がいることを説明します。

*参考資料：「海の中にも、山や谷がある」（偕成社『クジラとイルカ 海も地球も大研究』より）